

「今」と「未来」のために、今私たちができること [目標2] 飢餓をゼロに



「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現に向けた世界共通の目標「SDGs」。「今」も「未来」も幸せに暮らし続けるために、今を生きる私たちは何ができるのか。一人一人が「**自分のこと**」として考え、身近なことから行動していくことが大切です。

2 飢餓をゼロに



食品ロス

まだ食べられるのに捨てられてしまう食べ物

日本の食品ロス
年間約 600 万トン



世界で飢餓に苦しむ人々への食料援助量(約 420 万トン)
の約 1.4 倍

飢餓で苦しんでいる人は、世界中に約 8 億人いるといわれ、毎年多くの命が失われています。

飢餓の原因は、紛争や自然災害などのほかに「食品ロス」があります。日本では食料自給率が約 40%で、食料を輸入に大きく依存している一方、食品ロスなどで食料が大量に廃棄されています。もし、廃棄される食料が飢餓に苦しむ人々に行き渡ればと考えると、私たちにも無関係ではありません。

また、この目標には、食料の安定確保のため「持続可能な農業の推進」も含まれており、農業が盛んな本市でも、環境を守りながら安定した農業生産に取り組んでいくことが求められています。

日常生活でできる取り組み

「食品ロス」を減らそう！

- 冷蔵庫の中身を小まめにチェックする
- 外食の際は、食べ切れる量を注文する
- すぐに使用したり食べたりするときは、賞味・消費期限の近いものを購入する

市の取り組み

- 「食べきり協力店」の登録
→飲食店などの登録協力店と協同で食品ロスの削減を推進



- 農業関連施策の推進
→農業と食に関する活性化基本構想や大豆産地化推進事業などにより、持続可能な農業を推進